

みぶ町政だより



8月号

昭和49年8月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日第三種郵便物認可一部 9月



納涼盆踊り

今月の人口

8月1日現在	対前月比
総人口 29,780	123人増
男 14,867	62人増
女 14,913	61人増
世帯数 7,175	40世帯増

壬生納涼盆踊りは、8月14・15日の両夜にわたって、壬生小学校校庭で盛大に行いました。

この盆踊りは、昭和35年に町が工場誘致を記念に始めたもので、今年で15年になります。

これから恒例として毎年開催して、なお一層壬生町の名物の一つとしたいと思います。

この催しは、町社会教育委員会が主催で、町および各種団体の後援、協賛を得て、子どもからおとしよりまで、暑さを忘れ参加し、両夜の出が延べ1万人を超える見物人と踊り子たちでにぎわいました。

9月は「敬老の月です（お年寄りをいたわりましょう）」

長雨で「いもち病」が大発生

経済常任委員も現地視察



ル、中：二七〇ヘクタール、少：七七六ヘクタール、無：四〇〇ヘクタール。す。および多の計一八三ヘクタール程度が、穂青いもち枝梗ももちに移行するものと推定されます。

なお、いもちに罹病しているのは、早期早稲増殖による品種が主であり、現出穂期を迎えており、これが防除対策については、町、農協、普及所、指導所など関係機関と連携し、とり、広報による防除徹底の指導、農薬確保対策の協議、チラシによる広報をし、被害面積の把握を行った。

六月上旬に、県北を中心発生したいもち病は、梅雨期の低温多湿により広範囲にまん延し、七月、十五日現在で、六万一千ヘクタール余となつています。
本町においても七月上旬より南大岡地区の谷田を中心と程度の差はあるが、一円に発生している。本町の昭和四十九年の水稲作付面積は、二、四九ヘクタールであり、八月一日現在の調査では、その被害度が、基：千五ヘクタール、多：一五八ヘクタール

農薬空中散布を実施

稲の害虫である「ヒトメビウカ」の害がアココバエを駆除するため、壬生町農業中散布事業推進協議会では、農協が実施主体となり、八月一日、二日の両日にわたり午前四時から市営地区におよび稲葉地区（鯉沼、東原）の水田約四〇〇ヘクタールに農薬を散布した。

この日は、気象条件も穏やかで薬剤の散布が着実に進み、多大な成果をあげました。

水泳が二十五勝

第十六回下町部国民体育祭夏季大会は、七月十一日、野木町を会場に水泳をはじめ五種目の競技が盛大に開催されました。その結果、壬生は水泳が昨年準優勝で、二十五勝を逃しました。今年はいまだに優勝を飾り二十五勝となりました。
▼水泳：優勝Ⅱ壬生町
優勝Ⅰ大平町 準優勝Ⅱ壬生町
▼婦人レールボール

水道課が 本庁に移転

八月六日役場内内四課が、それぞれ移転しました。水道課は、今まで独協大の東側にある水北配水局内にありましたが、南側の庁舎が、元会議室に建設と水道課が配置されました。なお、北配水局には、業務係一名および配水関係員一名を従来通り勤務していただきます。

季節の話題

夏休みも終り
夏休みの計画はどの程度までうまくいったのだろうか。宿題や勉強の進み具合、海や山の思い出など、反省をふめたいめぐり。残り少ない夏休み、もういよいよ、もうあまたのような、落ち着かないこの頃です。この辺で早寝、早起きなど新学期のリハールをしてみてはいかがでしょうか。
そして、もう間近に迫っている「学期」の体の調整、精神的な安定、ということに重点を置いて、ゆとりとした気持ちで新学期を迎えられるように心をくばってやりましょう。

台風へ備えて

九月の雨を聞くと、朝夕はめっきり涼しくなり、日脚が短くなり、もう日暮が…と、秋の気配を感じます。そんなさわやかな初秋も、十日前後から、いわゆる秋の長雨がやがてきて、ちゅうと梅雨時のような、じめじめした雨ずら来い日さそそ。一方、一番心配なのは台風です。例年、大型の台風は襲われるのは九月で、万に備え、テレビ、ラジオなどの天気予報には十分注意しています。

赤ちゃんは 母子センターで

町の母子健康センターは、昭和三十一年に開設して、今年十年にこの十年間に、この母子健康センターを利用して誕生した赤ちゃんは、二三八七人になりました。（八月十三日現在）
使用料金も一八、八〇円です。これも、ご利用ください。ベビ数、五百あります。

各町内で下水清掃

きれいな生活環境で暮らしたいとだれもが願っていること。そして、六月は「環境整備の月」として町の推進事業を計画しておりますが、今年は異状長雨が続き、七月二日に実施しました。この日は、早朝から各町内で、カやハエの発生源となる開溝の清掃が行われ、これには、町の建設業組合の方々が、それぞれトラックをだして協力されました。協力された会社は、佐藤工業（株）、伏見建設（有）、鈴木建設（有）、中村工業（有）、篠原建設、田村建設、市川工務店の七社です。これから、町では生活環境の整備促進を図っていきますので、みなさんご協力ください。

町内対抗球技大会行方

壬生小学校PTAでは、各町内対抗の男子野球と女子ソフトの二日間に行われることが決まりました。参加チームは、野球が十八チーム、ソフトが十九チームでそれぞれ熱戦が展開され、父兄や子どもたちは、この暑ささとはすような試合が続きました。その結果は、次のとおりです。

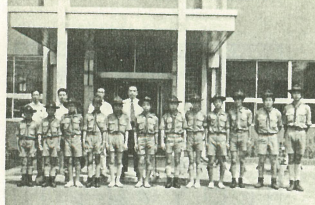
▼野球

優勝Ⅰ上通町 準優勝Ⅱ上表町 第三位Ⅱ万町 城東町
▼ソフト
優勝Ⅱ城南 準優勝Ⅱ上通町 第三位Ⅱ城南 旭町
写真は、男子の野球のようす

“日本ボーイスカウト 全国大会”に参加

日本全国のボーイスカウトの代表三万人名が参加して開催される第六回日本少年ボーイが、七月二十日から八月九日まで北海道千歳で行われます。

当町のボーイスカウト（育成会 長森喜太郎、団委員長高田義雄）では、隊員十二名、リーダー二名の代表が派遣される事となり、出発に際して佐藤町長から壬生町の代表にふさわしい活動をしてほしいと激励をうけました。大会のテーマは、広大な北海道カウトの一行

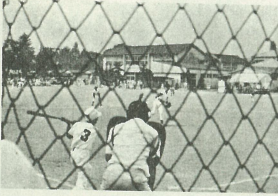


壬生中ハンドボール 関東大会へ出場

第九回関東中学生ハンドボール大会は、七月二十七日、二十八日の両日、栃木女子高校庭球場とて開催されました。壬生中学校ハンドボール女子部

職員募集

町では、保育所の父母を募集しています。
★資格 三十歳までの保育母
★締切日 九月一日（金）
★採用日 十月一日（火）
詳しくは、役場総務課へ



壬生小学校PTAでは、各町内対抗の男子野球と女子ソフトの二日間に行われることが決まりました。参加チームは、野球が十八チーム、ソフトが十九チームでそれぞれ熱戦が展開され、父兄や子どもたちは、この暑ささとはすような試合が続きました。その結果は、次のとおりです。

お知らせ



職員募集

役場では、昭和五十年度に採用する職員を次の要領で募集します。

○職務内容および採用人員
一般事務 若干名

○資格
来年度卒業見込の者（高校卒以上）または高専卒以上で年齢二十歳までの者

○手続
（一）申込用紙請求
（二）申込用紙は、役場総務課にあります。

○添付書類
履歴書 写真二枚、住民票抄本、健康診断書、最終学校卒業（または見込）証明書、成績証明書

○提出先
役場総務課

○締切日
昭和四十九年九月二十五日

○試験期
十月中旬の予定

善意銀行

社会福祉のために、役立たせて

母子健康相談

くださいと城内の柿沼幸太郎さんが金一万円寄附されました。

○とき 九月六日（金）
「十二日（金）」
「二十日（金）」

（時間は、いずれも十時から二時まで）

○該当地区
壬生地区、南大飼地区の満一歳未満の赤ちゃんです。

○ところ
中央公民館

三日月児検診
○とき 九月十八日（水）
午後一時二十分から五月、千日から六月十、九日までに生まれたお子さん

○ところ
中央公民館日室間
（母子健康手帳を持参すること）

一般健康相談

成人、老人、その他の健康相談についてお気軽にお出かけください。

○とき 九月十七日（金）
十時から二時まで

○ところ
中央公民館

妊婦検診
○とき 九月九日（月）
午後一時時から

○ところ
母子健康センター
○該当者
壬生町に居住する金妊婦の方

廃犬引き取り日
いらぬ犬は、はなさないで廃犬引き取り日に出示してください。

○日程 九月十日（水）
「二十五日（水）」
○場所および時間
役場本庁 九時まで
南大飼支所 九時十分まで
稲葉支所 九時十分まで

当番医師のお知らせ

九月の日曜、祝日は次の医師以外は全部休診になります。

日	町名	医 生	電 話
一日	安 家	島田 院 院	0011
八日	上通町	小倉 要 院	1195
十五日	仲通町	渡本 院 院	0056
十六日	上通町	木村 院 院	1030
二十三日	安 家	松本 院 院	0242
二十九日	安 家	佐藤 院 院	0123

時間は午前九時から午後四時



166

壬生町の鎮守

雄琴神社（三）

祭神（祖先）

天照大神 天武天皇 一品舍人親王 清原保定 黒川宮司

小槻今雄 壬生筑後守屋集 清国豪士 壬生町民

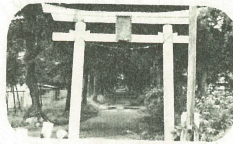
右の様に考えと祖先賢の神と申し上げるに相応しい神社である。

註、天武天皇
皇室系図第四〇代の天皇、名は大海人皇、天智天皇の同母弟、母は皇極帝（六六八）皇太子となつた。

天皇が妻子女友皇子（弘文天皇）に皇位を継がせたいと皇位を察し、髪を剃って吉野に走った。

大友皇子は、吉野に在る大海人皇子の心腹に、江近から吉野に至る道々に武装した見張り兵を置いたりしたため、大海人皇子は自分の生命を守るため、六六八年十月天皇が崩御されたとき、たまり兼ねて吉野に兵を挙げた。

そして、伊勢から藤原の豪族の応援を得て近江朝延の軍を撃破して、翌六七、飛鳥浄見原宮



雄琴神社の大鳥居

に於いて即位した。
この乱を「壬生の乱」といふ。天皇にそむいたり、皇太子を殺したりすることは、今日私達の常識では断り切れないものがあるが、皇位を巡る争いは度々あった事を考える。
仁徳天皇が位につくときには、異母兄の大山守皇子を滅し、一妻司祭者。

次、腹中天皇がなつたときには、同母弟吉仲皇子に殺されうになり、難波から大和まで逃げ上神宮を根拠にして皇子を倒した。
充慈天皇の死後に、輕皇子（安閑天皇）が対立し、輕皇子は滅され、その安閑天皇も、叔父の大草香皇子を殺し、その妻を皇位にしたところ、皇后の連れ子である眉輪王に殺された。
その後を継いで雄略天皇がなつたとき、天皇は同母兄白彦皇子と弟彦彦皇子を殺し、また従兄弟の市辺押磐皇子を有力な競争者として、狩に誘い出して不意に射殺した。
雄略天皇が死ぬと清寧天皇と皇川皇子が争つて、皇子は滅された。
「筆者 大垣」